

# 2014年3月期 第2四半期業績概要

2013年10月31日

アンリツ株式会社  
代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部:6754  
<http://www.anritsu.com>



**Anritsu** Discover What's Possible™

1

Financial Results FY2013 2Q  
Copyright© ANRITSU

## 注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

# 目 次

---

## I . 2014年3月期 第2四半期 業績概要

### I -1. 事業概要

### I -2. 連結決算概要

### I -3. 2014年3月期 通期見通し

## II . ソリューション、ESG、企業価値向上に関する 外部評価

---

## I -1. 事業概要



(セグメント別売上比率) **2013年3月期 実績(連結)：947億円**

計測 75%			産業機械 15%	その他 10%
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%		

(計測事業 地域別売上比率)

日本 25%	アジア、パシフィック 30%	米州 30%	EMEA 15%
--------	----------------	--------	----------

(ノート部記載なし)

## I -2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

モバイルブロードバンドサービスを成長ドライバーとして  
米州・アジアが大幅に伸張し、計測事業が堅調に推移

セグメント	2014年3月期 第2四半期累計期間(4月-9月)の状況
計測	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モバイル:LTE開発用、スマホ製造用需要が堅調</li> <li>・ネットワーク・インフラ:基地局整備の投資が堅調</li> <li>・エレクトロニクス:顧客の投資抑制傾向が継続</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本:モバイル関連投資が大幅に減速</li> <li>・アジア:製造用・開発用のモバイル関連が堅調</li> <li>・米州:スマホ開発・基地局整備の投資が牽引</li> </ul>
産業機械	国内・海外ともに堅調

計測事業の約50%を占めるモバイル計測事業が、引き続いて業績を牽引しました。成長ドライバーは、LTE方式の開発需要、スマートフォン(スマホ)の開発、製造の各用途市場、周波数再編や接続品質改善の無線ネットワークの整備化投資です。一方で、市場別、顧客別によって投資動向、投資規模で大きな変化や差異が見られるようになってきました。くわえて第2四半期以降のモバイル通信分野の企業買収、事業再編、事業の縮小撤退などの顕著な動きは、バリューチェーンの変化や市場ミックスの変化を伴うものとなっています。

2012年度と同様に、LTE開発用途、端末の開発、製造の各市場とも活発な動きが見られたのは、有力なプレイヤーが存在する北米市場、続いてアジア市場でした。それに比して、日本市場のスマートフォンベンダー、オペレーターはともに、前年同期比で設備投資を大きく縮減しました。

産業機械事業は、上半期全体を通して日本市場、北米市場を軸に堅調に推移しました。

その他事業の情報通信事業は、公共投資予算の執行に関わる要素が大きいため前年同期と同様の水準でした。

## I -2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位: 億円)

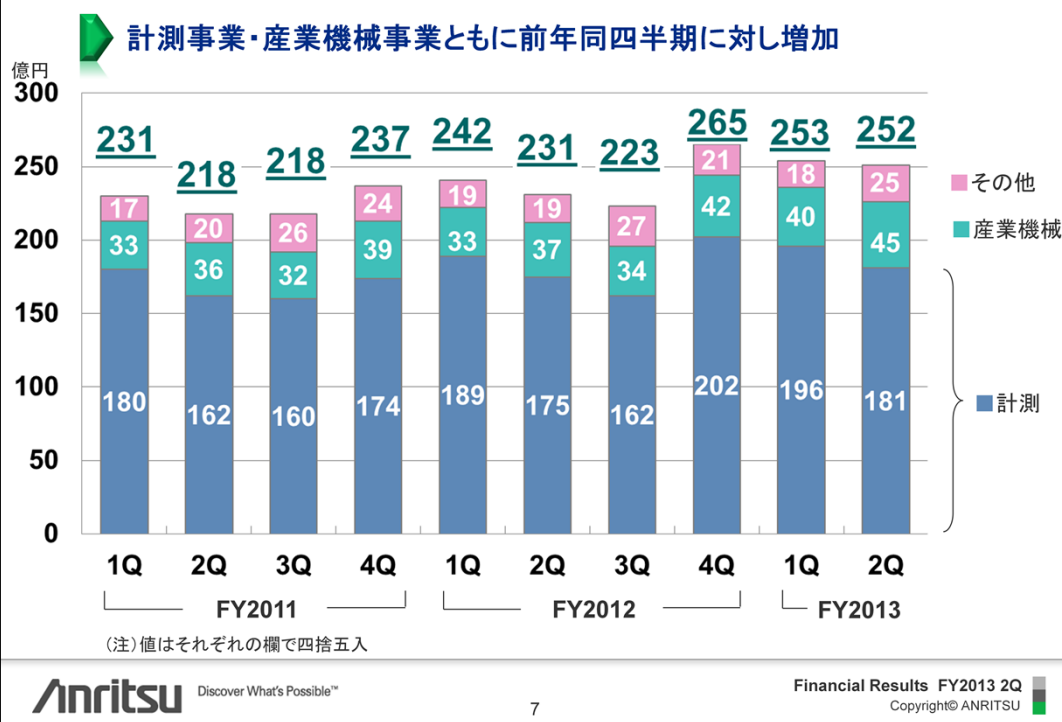
	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	473	506	33	7%
売上高	463	481	18	4%
営業利益	87	63	△ 24	△27%
税引前利益	81	66	△ 15	△19%
当期利益	69	43	△ 26	△37%
当期包括利益	61	56	△ 5	△9%
フリーキャッシュフロー	47	45	△ 2	△5%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

受注高は、前年同期比7%増加の506億円でした。

売上高は、前年同期比4%増加の481億円でした。海外の顧客対応のための体制を拡充したため、その関連の費用が増加したこと、くわえて海外グループからの調達費用が円高修正(円安)によって増加したため、営業利益は前年同期比27%減少の63億円となりました。税引前利益は、円安に伴う為替差益が金融費用を上回り、66億円となりました。四半期利益は前年同期比37%減少の43億円でした。包括利益は、在外営業活動体の為替換算差額11億円を計上した結果、前年同期比9%減少の56億円となりました。

## I -2. 連結決算概要 - 受注高推移 -



計測事業の受注高は、前年同期比4%増加の181億円でした。産業機械事業の受注高は、前年同期比23%増加の45億円でした。グループ全体としても前年同期比9%増加の252億円でした。

計測事業の第1四半期および第2四半期の受注高は、前年同期を上回る水準を確保しましたが、堅調な北米市場、アジア市場の受注が日本市場の落込みを補う結果となりました。2012年度上半期の日本市場でのモバイル関連の設備投資が活発であったこともあり、前年同期と比較して、市場別の受注動向は大きな変化となりました。

産業機械事業は、日本の大手食品メーカーの設備更改需要に堅調さがみられました。

## I -2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位:億円)

		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	354	365	11	3%
	営業利益	85	61	△ 24	△28%
産業機械	売上高	72	82	10	13%
	営業利益	5	6	1	33%
その他 (含:内部消去)	売上高	37	34	△ 3	△8%
	営業利益	△2	△4	△ 2	-
合計	売上高	463	481	18	4%
	営業利益	87	63	△ 24	△27%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

計測事業は、前年同期比3%の増収の売上高365億円となり、営業利益61億円、営業利益率16.6%でした。

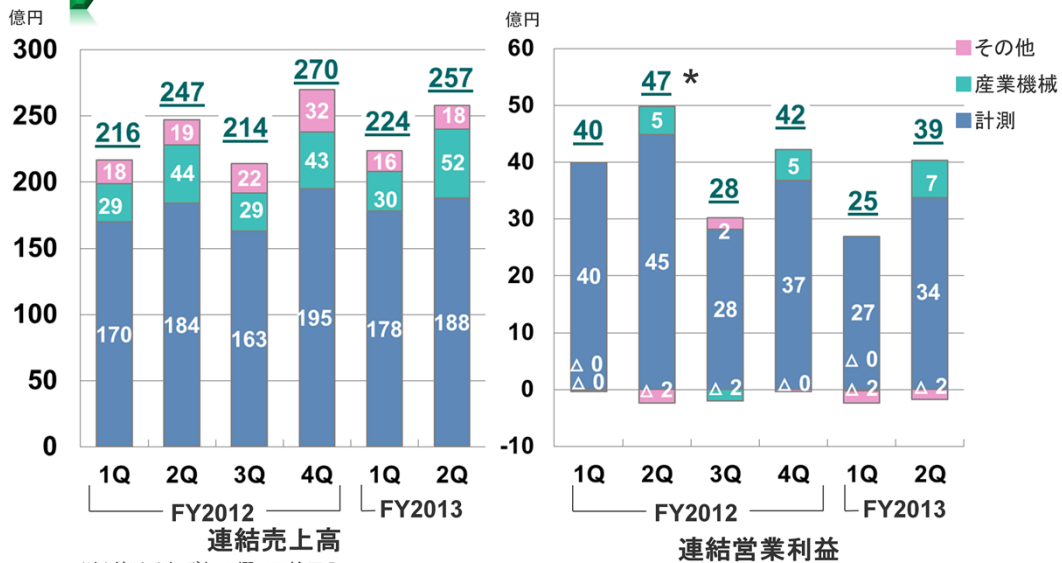
計測事業の営業利益率16.6%の水準については、円高修正(円安)に伴う増収要因はあるものの、海外顧客に対応するためのローカル体制の拡充に関連した人員と費用が増加していることにくわえて、日本市場の大幅な縮減の影響によるものです。

産業機械事業は、前年同期比13%増収の売上高82億円、同33%増益の営業利益6億円でした。



## I -2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 通期計画に対する第2四半期までの進捗: 売上高47%、営業利益37%



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

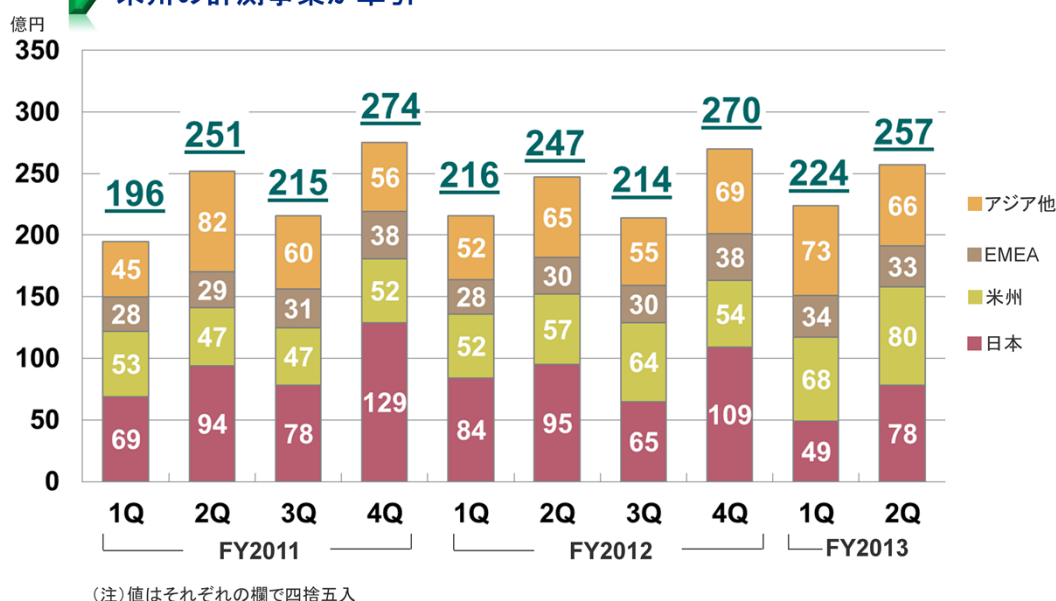
\* IAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。(修正前数値: 2Q連結営業利益48億円)

四半期単位の利益率は、市場ミックス、事業ミックス、プロダクトミックス、季節変動などにより変動します。なお、第2四半期までの2013年度通期計画に占める進捗率は、売上高で47%、営業利益で37%でした。

なお計測部門の四半期単位の営業利益率は、第1四半期15.2%、第2四半期18.0%でした。

## I -2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

米州の計測事業が牽引



Anritsu Discover What's Possible™

10

Financial Results FY2013 2Q  
Copyright© ANRITSU

地域別の売上高構成比率に占める日本市場の割合は、2012年度通期の37%、同上半期の39%から、2013年度上半期は26%まで、大きくシェアを低下させました。日本市場での売上高は上半期比較で前年同期比29%の減収となりました。

これは、日本の有力なプレイヤーによる、スマホ事業からの撤退、縮小や製造ラインの設備投資抑制による影響です。

一方で、米州市場はLTE関連の開発需要が引き続いて伸長しました。アジア市場ではLTE開発用途およびスマホ製造市場の両面で動きが見られるなど、前年同期比で増加しました。

## I -2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

▶ 着実にキャッシュフローを創出

FY2013 2Q(累計)

- ①営業CF: 78億円
- ②投資CF: △ 33億円
- ③財務CF: △ 24億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 45億円

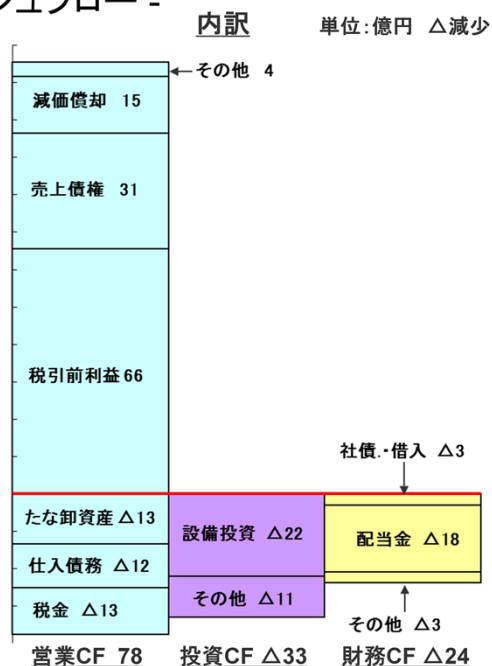
現金同等物期末残高

405億円

有利子負債高

191億円

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、上半期の季節的要因でもある売上債権の回収増に加えて、棚卸資産の圧縮にも取組んだ結果、運転資本合計として資金の流入となり、78億円の資金獲得となりました。営業キャッシュフロー・マージンは16.2%となりました。

投資キャッシュフローの設備投資22億円のうち、主なものは福島県郡山市における新工場建設にかかわる費用11億円です。なお新工場は、2013年7月初旬に稼動しました。

その結果、フリー・キャッシュフローは45億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローの24億円の資金流出のうち、主なものは配当金の支払い18億円です。これは、前年度の期末配当、1株あたり12円50銭の支払い分です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より28億円増加の405億円となりました。

## I -3. 2014年3月期 通期見通し(連結)

4月開示より変更なし

(単位: 億円)

		2013/3期		2014/3期	
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		947	1,020	73	8%
営業利益		157*	170	13	8%
税引前利益		161*	165	4	2%
当期利益		139	115	△ 24	△ 17%
計測	売上高	712	770	58	8%
	営業利益	150	155	5	3%
産業機械	売上高	144	155	11	7%
	営業利益	8	10	2	23%
その他	売上高	90	95	5	5%
	営業利益	△ 1	5	6	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 第3四半期以降 想定為替レート: 1米ドル=90円  
1ユーロ=120円

\* 前期実績の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。  
(修正前数値: 営業利益158億円、税引前利益162億円)

2013年度の通期業績の見通しは、4月25日に発表した計画と変更はありません。

下記のとおり、現下の状況は年初計画の前提とは異なる要素もありますが、年初計画の達成に向けて、組織を挙げて取組んでいく所存です。

アンリツグループの業績を牽引しているモバイル計測事業のメガトレンドに大きな変更はありません。しかし外部環境とりわけ顧客の競争地位や投資姿勢は、刻々と変化しています。LTE方式の開発と普及に係わる投資は、引き続き一層の拡大が見込まれます。とくに今下期は中国でTDD-LTEのサービスが始まることが期待されます。スマートフォンの普及は、米国、日本、欧州などの高価格帯のハイエンド・スマホ市場の成長率が鈍化する一方、中国、インドそして新興国では中価格帯、低価格帯のスマホ市場が急速に拡大しています。拡大する市場がある一方で、日本のスマホベンダーの事業撤退や投資抑制に伴い、日本市場では苦戦を強いられています。

このように成長市場といえども、市場と顧客の動向が目まぐるしく変化しているのが実態です。外部環境の変化はアンリツの事業リスクでもありチャンスでもあります。アンリツは、このような市場変化に的確にスピーディに対応し、適切な施策と投資を行うことで、事業リスクを成長機会へと結び付けていきます。

## II -1. LTE-Advancedのコンフォーマンステストシステム で業界初のGCF 認証を取得

LTE-AdvancedのRFおよびプロトコルコンフォーマンステスト認  
証数で業界No.1\*を獲得 \*GCF/PTCRB認証数: 2013年10月16日時点



RFコンフォーマンステストシステム  
ME7873L

プロトコルコンフォーマン  
ステストシステム ME7834



\*コンフォーマンステスト:

携帯端末の送受信特性や通信手順が国際規格に適合しているかを確認するための試験

\*GCF, PTCRB:

携帯端末のグローバルな相互接続性を保証するため、ネットワークでの運用基準や携帯端末の認証試験基準を定めている団体

Anritsu Discover What's Possible™

13

Financial Results FY2013 2Q  
Copyright© ANRITSU

当社のコンフォーマンステストシステムが、LTE-Advancedのキャリアアグリゲーション規格に準拠したRF/RRMコンフォーマンス試験およびプロトコルコンフォーマンス試験において、業界で初めてGCFの認証を取得しました。

LTE-Advancedの商用端末開発に際しては、北米ではPTCRB、欧州およびアジア(日本を含む)ではGCFが認証したテストシステムを用いてRF/RRMコンフォーマンス試験、プロトコルコンフォーマンス試験を行い、端末の品質基準が国際規格に合致していることを客観的に証明する必要があります。

当社は、アメリカで導入が予定されているLTE-Advancedにおいて、2013年6月に業界で初めてキャリアアグリゲーションに対応し、業界最多のPTCRB認証を取得しています。さらに今回、韓国で導入されるLTE-Advancedにも業界で初めて対応し、キャリアアグリゲーションのRF/RRMコンフォーマンス試験とプロトコルコンフォーマンス試験において、GCF認証を取得しました。

今回の認証取得により、当社のコンフォーマンステストシステムのGCF/PTCRB認証は、RF/RRMコンフォーマンス試験で60件、プロトコルコンフォーマンス試験で48件に達し、業界最多となりました。

\*RFコンフォーマンス試験: 携帯端末の送受信特性、パフォーマンスなどが国際規格に適合していることを確認するための試験。

\*RRMコンフォーマンス試験: 基地局と携帯端末間の無線回線などの制御に関する試験。

\*プロトコルコンフォーマンス試験: 携帯端末と基地局間の通信手順が国際規格に適合していることを確認するための試験。

## Ⅱ -2. 2013 Global Frost & Sullivan Awardを受賞(1)

### Award for Market Share Leadership



サイトマスタ S331L

ハンドヘルド・ケーブル&  
アンテナ・アナライザ市場をリード

\*Frost & Sullivanは、グローバルな市場調査会社です。

「グローバル・フロスト&サリバン・アワード」は、グローバル市場において、競争に対する先進性、優位性、革新性、戦略的な製品開発といった基準で評価し、顕著なパフォーマンスや優れたサービスを生み出した企業を表彰するアワードです。

今回、アンリツは、基地局の建設保守市場における優れたリーダーシップが評価された結果、サイトマスタに対して「マーケットシェア・リーダーシップ賞」と新商品PIMマスタに対して「新商品イノベーション賞」を受賞しました。



## Ⅱ -2. 2013 Global Frost & Sullivan Awardを受賞(2)

### Award for New Product Innovation



PIMマスタ MW82119A

移動通信基地局の建設・保守向けに、大幅な小型軽量化を実現

\*PIM: 送受信で異なる周波数を用いた通信システムにおいて、複数の周波数の信号が伝送された際に、その周波数の差に応じて発生する妨害波

移動通信基地局の建設・保守向けに、大幅な小型軽量化を実現したPIM (Passive Intermodulation) 計測器を提供し、顧客満足を向上しました。

特許技術であるDistance-to-PIM(TM)は「業界のデファクト・スタンダード」とされ、最新技術を活用した革新的要素により、製品の顧客価値を高める特徴・ベネフィットが評価されました。

## II -3. 「FTSE4Goodインデックス」構成銘柄に採用

### 2013年9月の定期構成銘柄見直しで採用

環境、社会、企業統治(ESG)に関するリスクの管理に優れた企業として評価

今回の見直しによる新規組入れ銘柄は30社、うち日本企業はアンリツのみ

2013年9月時点の組入れ銘柄数は世界749社(うち日本企業180社)



\*FTSE4Goodインデックス:

世界の代表的な社会的責任投資(SRI)指標として、ESGに関する世界基準を満たす企業を構成銘柄とした指数。

FTSEグループは株式・債券などの投資判断指数を提供するロンドン証券取引所100%出資の企業。

アンリツは、目標とするCSR達成像を、(1)安全・安心で快適な社会構築への貢献、(2)グローバル経済社会との調和、(3)地球環境保護の推進、(4)コミュニケーションの推進 に整理して重点的に取り組んでいます。

このようなCSRの取り組みは、企業価値(Enterprise Value)を構成する重要な要素でもあります。SRIの中でもグローバルな投資市場で評価されるFTSE4Goodインデックスの構成銘柄に選定されたことを励みに、今後とも積極的にアンリツらしいCSR達成像の実現に取り組んでまいります。

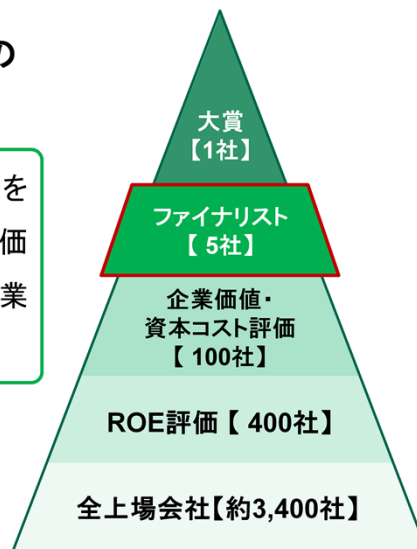


## Ⅱ-4. 東京証券取引所「企業価値向上表彰」 ファイナリストに選定

全上場会社 **約3,400社の中から5社**の  
ファイナリストにノミネート

高い企業価値の向上を実現し、資本コストを  
はじめ投資者の視点を深く組み込んで企業価  
値の向上を目指した経営を実践している企業  
を表彰

**大賞は2013年12月に決定予定**



アンリツは、株主・投資家の皆さまの期待に応えるべく、企業価値の向上に取り組んでいます。その改善度を測る重要な経営指標が、(1)アンリツ独自の経済的付加価値を創出する指標ACE (Anritsu Capital-cost Evaluation = 税引き後営業利益 - 資本コスト)、そして(2)株主資本に対するリターン効率を測るROEです。今回のファイナリスト選定を励みに、一層の「資本コストを意識した経営」を徹底させ、「利益ある持続的成長」を目指してまいります。



株主・投資家のみなさまのご支援とご協力をお願いして、2014年3月期第2四半期の業績報告とします。